

みえみえ

ほっと越谷

特

集

未来はわたしたちが変える

—SDGs(持続可能な開発目標)



男女共同参画に関する苦情処理制度について
相談室からのメッセージ

「新型コロナウイルス感染拡大と女性たちの現状」

登録団体活動紹介

越谷市政モニターOB会／越谷自然ガイド協会



編集・発行 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」

「ほっと越谷」は、越谷市の指定管理者制度導入により、現在は「認定特定非営利活動法人 男女共同参画こしがやとろう」が管理・運営しています。

※この情報誌はホームページ (<https://hot-koshigaya.jp>) でもご覧になれます。



SDGs は 2030 年までの達成を目指す国際的な目標。貧困や飢餓、テロや紛争、ジェンダーや社会的格差、エネルギー、気候変動など、世界が抱えるさまざまな問題の解決・解消をめざしていますが、コロナ禍によってその達成が試されています。今こそ一人ひとりがSDGsについて知り、理解を深め、行動につなげていくことが求められています。

寄稿 「誰一人取り残さない」社会の実現

～コロナ禍で一層求められる

SDGsへの取り組み



たなか まさこ
田中 雅子 さん

(上智大学総合グローバル学部教授)

プロフィール

社会福祉士。国際協力論、NGO 論、ジェンダー論、南アジア地域研究。アジア、アフリカで国際協力の実務に従事するかたわら、現地の女性運動に関わる。現在は、日本で暮らす移民女性の妊娠・中絶について調査中。著書に『ネパールの人身売買サイバーの当事者団体から学ぶ—家族、社会からの排除を越えて』上智大学出版、『SDGs を学ぶ—国際開発・国際協力入門』法律文化社（高柳彰夫・大橋正明編）など。

持続可能な開発目標（SDGs）とは

2015 年 9 月、国連総会は「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を全国連加盟国 193 カ国の全会一致で採択しました。その前文と宣言に続く 17 の目標と 169 のターゲットが、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）です。

2000 年に採択された「ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）」は、貧困撲滅や社会開発を中心に据えた途上国の目標でした。しかし、近年各国で所得格差が広がっていることから、SDGs ではすべての国が国内格差の問題に取り組むことが求められています。SDGs は、環境・経済・社会の三側面から平等や人権、持続可能性の課題に取り組むよう世界に「変革」を求めているのです。

「誰一人取り残さない」

前文は「誰一人取り残さない」ことを誓っており、人権の重要性を述べています。そのための取り組みとして、目標 10「人や国の不平等をなくそう」では、属性を理由とした排除の克服や不平等を是正するための法制度整備をあげています。

また目標 16「平和と公正をすべての人に」では、暴力や虐待だけでなく、人権擁護の中心課題である法の支配や司法へのアクセスを取り上げています。

ジェンダー平等への取り組み

前文では「ジェンダー平等の実現と、女性と女の子のエンパワメントは、すべてのゴールとターゲットにおける進展において死活的に重要な貢献をするものである」と述べています。目標 5「ジェンダー平等の実現とエンパワメント」だけでなく、他の目標を達成するためにも、ジェンダー平等の実現が不可欠であることがわかります。目標 5 は、他の目標と異なり「2030 年までに」という達成期限が記されていません。これは「直ちに」取り組むことを求めているからです。

目標 5 には、①法制度上のジェンダー差別の撤廃、②人身売買など暴力の排除、③児童婚など伝統的慣習の撤廃、④家事や介護などの平等な分担、⑤政治・経済・公共分野での意思決定への参画とリーダーシップ、⑥性と生殖に関する健康へのアクセスやその権利保障などが含まれています。

女性や女の子のエンパワメントを阻んでいる暴力

の問題など、MDGs と比べてより多くの課題が取り上げられていることがわかります。

実施手段

SDGs には、各目標の実施手段も記されています。目標 5 を実施するために、資源への平等なアクセスを保障するための法改正、情報通信技術（Information and Communication Technology：ICT）の活用、ジェンダー平等政策やジェンダー予算の導入の 3 点が示唆されています。

法改正や政策は国家レベルの話だと考えがちですが、立法府や行政府に声を届けるのは、主権者であるわたしたちです。また、すでにある政策や予算が、ジェンダー平等に資するものであるかの点検は、国家レベルでなく、地方自治体や企業、学校など身近なところから始められるのではないのでしょうか。

コロナ禍で浮き彫りになったこと

ICT の活用は、日本ではすでにできていると思われがちです。しかし、SDGs が目標 5 で特記しているのは「女性のエンパワメント促進のため」の活用です。

感染症の拡大により、オンライン授業や在宅ワー

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

クが増えました。しかし、パソコンや Wi-Fi の使用は父親や夫が優先で家庭内での ICT へのアクセスも不平等であるという学生の声を聴いています。

学校の休校や保育園の休園が女性の負担になっていることもメディアで報じられています。SDGs のターゲット 5.4 は、その指標として「無償の家事・ケア労働に費やす時間の割合」を性別、年齢別、場所別に出すことを求めています。これは、コロナ禍における負担の不平等を可視化させることにつながります。

新型コロナウイルス感染症は、シングルマザー、移民女性、高齢単身女性など、平常時から脆弱な人たちにより深刻な影響を与えています。SDGs のターゲットや指標は、危機にある今こそ「誰一人取り残さない」社会を実現するためのツールとして生かすことができるのではないのでしょうか。

男女共同参画セミナー



「ウィズコロナの今、私たちの暮らしから考える SDGs」を開催しました。

10 月 11 日（日）、「ほっと越谷」で男女共同参画セミナー「ウィズコロナの今、私たちの暮らしから考える SDGs」講座「カードゲームで SDGs を学ぼう！—SDGs 達成はジェンダー平等から」を開催しました。SDGs の 17 の目標達成までの道のりを体験する「2030SDGs カードゲーム」を参加者全員でプレイし、環境・経済・社会の三側面が相互に関連していること、統合的取り組みが必要であることなどについて学びました。参加者からは「SDGs が身近になった」「何をしなければいけないか、考えるきっかけになった」という声が聞かれ、一人ひとりが起点になって行動することの重要性を確認しました。

10 月 21 日（水）、29 日（木）には学習会「身近な社会問題から SDGs を考える—SDGs と新型コロナ」を開催し、参加者とコロナ禍での身近な社会問題について話し合い、SDGs の目標と関連づけて解決策を探りました。

今回の男女共同参画セミナーの開催では（一社）越谷青年会議所の協力をいただきました。越谷青年会議所では SDGs 推進委員会を立ち上げ、さまざまな取り組みを行っています。今年度は「まだ間に合う！学んで始めて SDGs」という啓発動画を作成し、公開しています。SDGs についてわかりやすく解説していますので、ぜひご覧ください。URL: <https://www.koshigaya-jc.com/blog/2020-07-26.html>



「自分事」^{ごと}としてSDGsに取り組む

— 行動する越谷の方々にインタビューしました！



SDGsについて、「大事なことだと思うけれど、自分とは遠い世界の話」「自分の行動を変えるくらいでは地球の未来は変わらない」と考えがちです。しかし、世界のさまざまな問題が自分にも関わりがあると感ずること＝「自分事」にすることがSDGs達成への最初の一步です。一人ひとりの小さな変化が多くの人に伝われば社会を変えることができるかもしれません。SDGsに関心を持って行動する越谷の方々を紹介します。

★多田裕子さん

— 蒲生から「環境問題を意識し、行動するまち」を発信する



12年前、サーフィンの魅力に目覚めた多田裕子さんは、週末、海に通う生活

を続けるうちに、海洋汚染や海洋環境の悪化などについて知り、自分にできることはないかと考え始めました。バリスタ*でもある多田さんは、数年前に越谷市に転居し、蒲生の商店街でカフェ「Smiley Coffee」を開店。環境問題に対するさまざまな取り組みをお店で進めています。プラスチックフリーとゼロウェイスト*を目標に、環境にやさしい携帯用のタンブラー、ステンレス製のストロー、エコバッグなどを開発し、多くの人に使ってもらっています。

2020年にSDGsを自分たちにも「できること」「できそうなこと」として身近なものから理解を深めるイベント「Hello! Smiley Day」を企画、5月に蒲生寿町公園で越谷市、越谷市市民活動支援センターなどの後援を得て開催する予定でしたが、新型コロナウイルスのためにやむなく中止になりました。

多田さんによれば、新型コロナウイルスによって環境に対する社会の意識は確実に変わったとのこと。気候変動、温暖化、フードロス、マイクロプラスチックごみ…このままでは地球は持続できないという危機感が共有されてきたといいます。「Hello! Smiley Day」イベントは2021年5月4日に開催すること



Smiley Coffee
オリジナルの
携帯用タンブラー

が決定、さらに環境に配慮した企画で進めたいと考えています。マイカトラリー*、マイストロー、マイタンブラー…自分で用意できるものは自分で持参し、ごみも持ち帰り、このイベントでしかできない体験をしてほしいと思っています。蒲生から、「住むことが誇りに思えるまち」「環境問題を意識し、行動するまち」を発信していきたいと願っています。

*バリスタ：コーヒーのスペシャリスト

*ゼロウェイスト：無駄なごみをゼロにしていこう取り組み

*カトラリー：フォーク・スプーンなど

[Smiley Coffee]

■住 所：越谷市蒲生寿町 9-40

■電話番号：048-915-7447

■営業時間：平日 12:00～18:00

★古窪敏行さん

— 環境保護活動で、越谷の自然を次の世代へ



32年前に越谷市に移り住んだ古窪敏行さんは、川が流れ、さまざまな生き物が生息する越谷の自然、とりわけ北越谷の元荒川周辺の自然の美しさに気づき、

この姿を未来の世代にも手渡していきたいと思いました。

近年、越谷市では宅地化が進み、新しい住宅が建てられ、人口が増加しています。市が発展してきた半面、木が伐採されるなど自然が姿を変え、減少する傾向にあります。古窪さんは、2015年に「元荒川の自然を守る会」に参加し、川べりの清掃活動や外来種植物アレチウリの駆除などの活動に取り組んできました。今ある自然の姿を記録したいという想いで、2016年から元荒川周辺を定点観測し、記録した写真やメモをまとめ「週刊 元荒川」というニュースレターを発行、その活動を『元荒川の四季—越谷市北越谷の小自然 2016-2017』という本にしました。2017年以降は「元荒川ウォッチングリポート」を毎月発行し、写真とコメントで川べりの様子と会の活動を発信しています。近年は準絶滅危惧種に指定されているフジバカマの保存やジャコウアゲハが産卵するウマノスズクサの苗を地域に配るなど、越谷の自然を持続可能にするために、できることから行動しています。

古窪さんの活動は、環境問題を通して、経済を優先し環境や社会を後回しにする社会のあり方を捉え直す

うというSDGsの視点と共通するものがあります。市内の小学校から請われて出前授業に行くときは、子どもたちに身近な自然の姿について話し、環境問題の大切さを伝えているそうです。また、環境改善に関心をお持ちの方が、ともに活動に参加することを希望しています。



「元荒川の四季」は1600部発行して、地域住民にも無料配布した

【元荒川の自然を守る会】

連絡先 ■電話：090-9100-3147（古窪）
■Eメール：huruhuru50@hotmail.com
■Facebook：https://www.facebook.com/motoarakawa/



★高島恵里さん

— 子育て中の母親がいきいきと暮らせる
居場所づくりをめざして



2030SDGs カードゲームに参加した高島恵里さん（たかしま えり）に講座の感想を聞きました。

「たくさんの方が参加されていて越谷市のみなさんのSDGsへの関心の高さに驚

きました。SDGsは一つひとつのアイコンに目が行きがちですが、広い視野を持って自分事として捉えることが必要だと思います。SDGsに無関心でいることはできても無関係ではられない。一人ひとりの意識が変わることがゴールの達成につながるのかもしれない」

高島さんは以前、公益社団法人ガールスカウト日本連盟の事務局で主に教育プログラムや成人のトレーニングを担当、少女や若い女性のエンパワメントを推進する活動に取り組むためのマネジメントをおこなっていました。

現在、ご自身も越谷で子育てをするなか、「子育ての不安や孤独を抱えている人の気持ちを軽くするにはどうしたらよいのか」「子どもたちが自分の住むまちに誇りが持てるようにするには何をしたらよいのか」との想いから、母親が地域でいきいきと過ごすことが、子どもたちの成長過程にプラスの影響をもたらすと考えました。そこで、母親と子どもと一緒に気軽に立ち寄って、ほっとしたり、悩みを話したりする場所と、母親自身が得意なことや好きなことを活かして社会参画できる仕組みをつくりたいと思ったそうです。「身近なことがSDGsの取組みにつながっていることを子どもたちに伝えていきたい。自分がアクションを起こすことで何かが変わるかもしれない。まだ形にはなっていませんが、夢が実現したら、それはSDGsの目標達成につながっていくと思います」。誰もが利用できる居場所づくりのため、現在準備を始めています。



2030SDGs カードゲームの参加は今回で2回目。さらに理解を深めたいと参加した

SDGs に関する本

図書紹介

「ほっと越谷」の所蔵本のなかから、SDGs について理解を深める本を紹介します。

※「ほっと越谷」では、いつでも本を貸出ししています。



SDGs を学ぶ 国際開発・国際協力入門

編者：高柳彰夫、大橋正明 他
発行：法律文化社

SDGs の背景にある理念である「誰一人取り残さない」。人権、ジェンダー平等を踏まえつつ、市民社会の視点からの批判性も持ちながら、SDGs を取り巻く諸問題をわかりやすく説明する入門書。



未来を変える目標 SDGs アイデアブック

編著：一般社団法人 Think the Earth
監修：蟹江憲史
発行：一般社団法人 Think the Earth

SDGs の 17 の目標を解説。解説と問題提起、事例がセットになって、自分ができることを考えるきっかけを与えてくれる。各目標に QR コードがついていて、追加情報へのアクセスも可能。



持続可能な地域のつくり方 未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン

著者：筧裕介
発行：英治出版

SDGs を持続可能な地域づくりのツールとして活用。地域課題を読み解き、真の原因に迫るための「システム思考」や、地域づくりに必要な「6つの技術」等、地域を着実に変えるための具体的な方法論を示す。



世界中の子どもたちの権利を まもる 30の方法

だれひとり置き去りにしない！
編者：認定 NPO 法人国際子ども権利センター、甲斐田万智子
監修：荒牧重人
発行：合同出版

「子どもの権利条約」は、子どもの権利に関する世界共通の基準である。生まれる環境を選ぶことのできない子どもが直面する差別や困難の事例から、守られるべき権利と支援について紹介する。



男女平等はどこまで進んだか 女性差別撤廃条約から考える

監修：山下泰子、矢澤澄子
編者：国際女性の地位協会
発行：岩波書店

SDGs の 17 の目標すべてに関係している「ジェンダー平等」。女性差別撤廃条約を基に男女平等について幅広く考え、いまま根強いさまざまな差別をなくすためのヒントを提案する。



Because I am a Girl わたしは女の子だから

著者：ティム・ブッチャー 他
訳者：角田光代
発行：英治出版

開発途上国の女の子たちの現状を世界各国の作家たちが綴った連作集。女性であるという理由だけでさまざまな差別や困難に直面する女の子たちを「知る」ことが未来を変える一歩になる。

男女共同参画に関する苦情処理制度について

越谷市では、男女共同参画の適切な推進を図っていくため、男女共同参画に関する市の施策や男女共同参画を妨げる事案に対する市民や事業者からの苦情の申し出を公平・中立な立場で処理する苦情処理委員会を設置しています。苦情処理委員は、申し出の内容について調査を行い、その結果、必要があると認めるときは、関係者に対し、助言、勧告、是正の要望等を行います。秘密は厳守します。申し出の方法や詳しい制度の内容については、人権・男女共同参画推進課（☎ 048-963-9113）までお問合せください。

「新型コロナウイルス感染拡大と女性たちの現状」

2020年4月、新型コロナウイルス感染拡大による経済対策として、1人当たり10万円の特別定額給付金の支給が決定しました。報道にもあったように、受給権者は世帯主、支給方法は世帯主の口座に世帯員全員分が振り込まれるというものでした。

公表されるや否や、全国の配偶者暴力相談支援センター等に問合せや相談が殺到しました。後に、特別措置により、配偶者からの追及を恐れて住民票を異動しないで転居した人が、避難先の配偶者暴力相談支援センター等に相談して給付金を受け取れるようになり、相談室にも同様の状況にある人々がたくさん来所されました。

しかしながら、暴力（身体的・精神的・経済的・性的暴力など）があっても、経済的な不安や子どもの学校などさまざまな事情で家を出ないで、配偶者との生活を続ける方々の問題も同時に浮き彫りになりました。「10万円があれば、離婚のためのアパートを借りる資金にできたのに…」「生活費をもらえない。せめて自分の分だけでもなんとかならないか」という相談です。

専業主婦のAさんによると、結婚して40年余り、夫は早朝から深夜まで仕事一筋で、家庭を一切かえりみず、不満を口にしようものなら、「うるさい！」と怒鳴りつけました。退職後、夫はパチンコに通い詰めるようになり、退職金までも使い果たし、Aさんは持病の手術代も払えない状況です。給付金の相談に来所されたものの、残念ながら、夫と同居しているAさんは特別措置の対象にはなりませんでした。

Aさんが直面した問題の背景には、社会の仕組みがまだまだ家長（世帯主）中心の「家」単位であり、性別による固定的役割分担の課題があります。現在、家族のあり方や人々の意識も変化し、SDGs（持続可能な開発目標）においてもジェンダーの平等が重要課題となるなか、このような世帯単位の仕組みを見直す必要があるかもしれません。

相談室では、すぐに解決策が見つからなくとも、別の視点から見た手立てはないか、一緒に考えていくことができます。一人で抱えず、ぜひ相談室にいらしてみませんか？

相談無料！

秘密厳守！

女性の生き方・パートナー相談、DV相談ができます

（祝日・年末年始を除く）

● 電話相談

☎ 048-963-9176	☎ 048-970-7415	
月～金曜日	水・金曜日	土曜日
午前10時～12時 午後1時～4時	午後5時～8時	午前10時～12時 午後1時～4時 （第4土曜日 午後2時～4時を除く）

● 面接相談（要予約）

予約電話番号 ☎ 048-963-9176

（月～金曜日 午前10時～午後4時）

相談時間：午前10時～12時 午後1時～4時

場 所：月～金曜日 越谷市女性・DV相談支援センター
土 曜 日 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」
（第4土曜日午後2時～4時を除く）

★女性のための法律相談（要予約）

相談時間：毎月第4土曜日 午後2時～4時

場 所：越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」
※事前面接をお願いしています。

越谷市政モニターOB会

越谷市では、市民の声を市政に反映するために、「市政モニター制度」を導入しています。市政モニター経験者等を中心に昭和59年（1984年）に設立されたのが越谷市政モニターOB会です。現在、会員は32人で、活動の柱は、①市政のモニター、②会員の親睦、③会報誌「かわかぜ」の発行です。

①の市政のモニターでは、市長・教育長・議員との懇談会を開催し、市議会や審議会の傍聴等で市の施策を学び、市政に提言します。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、対面の懇談会を中止し、会員懇談会で財政・コロナ対策・教育問題・防災等についてまとめ、書面による市長への質問・提言を予定しています。また、第5次越谷市総合振興計画に対するパブリックコメントを提出しました。SDGsに関しては、近隣自治体、市内の企業・団体との連携推進を提言し、会報誌「かわかぜ」でも17の目標及びレジ袋の有料化について考察、提言しました。

活動で越谷市民と市政をつなぐ

た。
②の会員の親睦では、今年はコロナ禍で中止しましたが、毎年、研修を兼ねた日帰りバス旅行を実施しています。一昨年は茨城県の乳製品工場等を見学しました。③の会報誌「かわかぜ」は年2回、約160部発行し、会員はもちろんのこと、現役市政モニター、市職員、議員や関係団体等にも配布しています。



市議会一期生議員6人との懇談会

【連絡先】越谷市政モニターOB会

TEL:080-8727-2394 渡部壽三（わたべ としみ）

越谷自然ガイド協会

越谷自然ガイド協会は、平成7年（1995年）に設立された越谷市自然ウォッチング指導員連絡協議会から自然が好きな仲間が集まり、自然とのふれあいを楽しみ・自然を知り・学び・自然環境への認識を深める活動を通じて多くの人に共感の和を広げて、自然の恩恵を将来にわたって持続的に享受できる自然環境の保全に貢献することを目的に平成27年（2015年）に設立された団体です。

主な活動は、子どもたちに遊びを通して自然や生態系について学んでもらい、将来につながることを目的とした学校ビオトープ整備での自然環境学習の実施、どんぐりなどの自然の材料を使って作品をつくる「トトロの森からの贈り物」の開催などです。これらの活動は行政や教育機関が実施する自然環境保全の施策への支援や協力にもなっています。

ほかにも久伊豆神社で「カラスの蒔（ねぐら）調査」を実施

自然を大切に思い、自然とのふれあいを楽しみたい

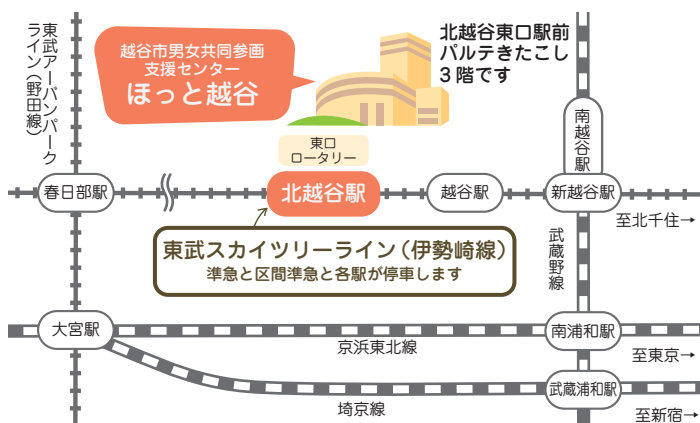
しています。会員が最低3人一組となってカラスの数を数えるなど実態調査を行い、カラスとの上手な付き合い方を考察します。また国内最古の煉瓦水門である「谷古田（やこだ）用水路 緑道の自然」調査を手がけ、調査結果をまとめて「ほっと越谷」の平成31年（2019年）「七夕フェスタ」などで発表しました。今後も自然を大切にしながら、野生生物の生育環境の保全、生物多様性の保全など自然保全に努めていく方針です。



「ほっと越谷」七夕フェスタで実施した「トトロの森からの贈り物」

【連絡先】越谷自然ガイド協会

TEL:048-975-8302 中村千代子（なかむら ちよこ）



※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、「ほっと越谷」の開所時間、講座等に変更がある場合があります。最新の情報に関してはホームページでご確認ください。

みてみて ほっと越谷 第48号

令和3年2月1日発行（年2回発行）

編集・発行 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」
（指定管理者 認定特定非営利活動法人 男女共同参画こしがやともろう）

所在地 〒343-0025 越谷市大沢3丁目6番1号
パルテきたこし3階

TEL 048-970-7411 FAX 048-970-7412

E-mail 00941mw@hotmail.co.jp

URL https://hot-koshigaya.jp

開所時間 午前9時～午後9時（日曜日は午後5時まで）

休所日 月曜日、祝日、年末年始
（月曜日が祝日の場合は火曜日も休所）

